

8-4

鍵盤楽器の楽譜に2種類の指使いがある時は、音符あるいは音程のあとに2つの指記号を記す事によって示す。2つの記号の順序はどちらでもよいが、一度順序を決めたならば、それを厳密に守らなくてはならない。

8-5

2つの指使いを持っているパッセージで、どちらかの指使いがどこかの音で省略されている場合には、第1の指使いの場合はそこを6の点でうめ、第2の指使いの場合は3の点でうめなくてはならない。これは鍵盤音楽にのみ適用される。

例8-5

The image shows a musical staff with a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a 2/4 time signature. The notes and their fingerings are: G4 (finger 2), A4 (finger 1), B4 (finger 4), C5 (finger 4), B4 (finger 3), and A4 (finger 2). Above the staff, there are Braille-like symbols consisting of groups of three dots, representing the fingerings for each note.

B. 弦楽器

1. 左手

表8Bの記号

⠠⠠	親指	⠠⠠	3の指
⠠	1の指	⠠	4の指
⠠	2の指	⠠	0 開放弦
⠠	同音上で指を換える		

8-6

左手の指記号は8-1節から8-5節で説明したように使われるが、一つ大切な違いがある。2つの指使いがあるパッセージは、部分けか別形によって書かれなくてはならない。例9-57を参照せよ。

8-7

特に練習曲では時々、指記号のあとに長い継続線が続いている。これは、このような線の始まりにある指記号の後に3の点を打つ事によって

表される。この線の終わりは、音符の後に6の点を記し、もう一度指記号を記す。3の点と6の点をこのように使う為、2種類の指使いがある時は、それぞれのセットを別々に記さなくてはならない。

例8-7

8-8

国際的合意に従って、親指記号は他の指記号のように音符の後に付けるべきである。

例8-8

8-9

「バルトーク」のピッチカートのように、親指の為の記号が他の意味として使われている時は、点字の記号は同じものを使用する。

例8-9

8-11

まれに、“p・i・m・a”指記号の文字のかわりに、点が使われる。その場合、点字では文字が使われる。

例8-11では、プラス記号は“p”を、音符の上に点1つは“i”を、点2つは“m”というように表している。

例8-11

The image displays musical notation for Example 8-11. At the top, there are two lines of Braille notation. The first line contains a sequence of Braille characters representing musical symbols. The second line contains a few more Braille characters. Below the Braille is a musical staff in 4/4 time, featuring a treble clef and a key signature of one flat. The melody consists of eighth-note patterns. The first two measures have a plus sign (+) below the first note. The third and fourth measures have two dots (m) below the first note. Above the staff, there are three groups of three dots (i) above the first notes of the first, second, and third measures. Ellipses (...) are placed above the first notes of the first and second measures.